
(令和4年8月27日掲載)

安心と未来への希望求めて



入交 智子 (いりまじり・ともこ)

「すずめ家族の会」会長。1960年、高知市生まれ。長女が2005年4月からすずめ共同作業所、現在はすずめ旭天神センターに通所中。「すずめ家族の会」は社会福祉法人「すずめ福祉会」が運営する施設(すずめ共同作業所、すずめ通所センター、すずめ旭天神センター)の利用者とその家族約160人で構成される。2015年4月から会長を務め、バザーや研修会の開催、会報誌の発行などの活動をしている。防災士。

すずめ共同作業所は、年齢も障害もさまざまな方が利用している多機能型の通所施設です。作業所が立つ高知市丸池町は、近いうちに必ず発生するとされている南海トラフ巨大地震により、30～40分後には最大浸水深2～3mの津波が到来。液状化による道路の寸断なども想定されている地域です。

特に津波は海からだけでなく、江ノ口川、丸池川、国分川などの河川遡上によるダブルでの被害を受けることが想定されています。津波から避難するためには、平屋である作業所から一定の高さのある場所まで、全員が限られたわずかな時間内で移動しなければなりません。そのための避難訓練を毎月1回行っていました。

そんな訓練を続ける中、防災士で一般社団法人「福祉防災コミュニティ協会」認定の福祉防災上級コーチでもあり、特別支援学校や福祉施設などで支援を行っている湯井恵美子先生と出会いました。

先生からの助言により、緊急時に利用者のできること、できないこと、1人ではできないけど手伝ってもらったらできそうなこと(例えば1人で歩けるが階段は上がれない、でも肩を支えてもらったら上がれるなど)を整理していきました。

整理していく中、「手伝ってもらったら」の部分を「職員」だけでなく「地域の方々」にも一緒に手伝ってもらうことができないだろうか? どうしたらそれができるだろうか?と考えました。それが「すずめ共同作業所SOSカード」です。

初めてカードを目にする人が目的や内容を一目で把握できないといけません。そのため、地域の皆さんにも運動会やお祭り会場でカードを見てもらい、意見を頂きました。

カードの内容を必要最小限に絞り込み、文字も大きく分かりやすくなるよう工夫を重ね、

湯井先生や施設、行政の担当の方々はもちろん、下知地区減災連絡会を中心とした地域の皆さんら、多くの方々の知恵と力を頂きながらようやく形にすることができました。

今はまだスタートラインに立った状態です。災害の発生前に少しでも多くの人に知ってもらい、助かる人が増えてほしいと願っています。何でも自分一人ですることができるようにならなくてもいい。できないことをできないと周囲に認識してもらい、助けてもらうことも大切だと思います。

そして私たち障害者とその家族はただ守ってもらう存在だけではなく、もっと主体的に自分たちを守るために動くことができるのではないかと。そして地域防災に貢献できる存在にもなり得るのではないかと気づきました。

これからは、支援する側・支援を受ける側という区別をせず、皆が主体的に防災に取り組むことが重要だと考えます。すずめ共同作業所は現在建て替え工事中で、完成すれば利用者はもちろん、地域の皆さんにも利用していただける、新たな避難場所として生まれ変わる予定です。

今回紹介したSOSカードは、利用者も職員も「全員」が、「确实」に安全な場所へ安全な方法で行くことを目的としています。つまり「命を守る」ことを第1の目的としています。

災害の発生から命を守る、命をつなぐことはもちろん大切です。でも、災害はいつ起こるか分からない。「いつ起こってもみんな助かる」「自分も助けてもらえる、きっと大丈夫！」みんながそう思えるような、未来に希望が持てる日々の暮らしをつくるのが大切だと思います。

防災とは、今、安心して豊かな気持ちで暮らすことができるようにすることも含まれるのではないのでしょうか。



すずめ共同作業所の避難訓練の様子

すずめ共同作業所SOSカード 避難の際に呼びかけ、お手伝いをお願いします	
みんなさん!	いっしょに逃げよう!
<どこへ?> クンペル 屋上	・全盲です あなたの肩に本人の手をおき 「階段だよ」等の言葉で誘導して下さい
<持っていくもの> ・薬 ・白杖	<注意> 糖尿病です 薬(インシュリン)を持っている ので声かけて下さい

地域の人の意見も参考に作った「SOSカード」